

倫理法人会の運営は、それぞれ役職を受けている会員が担っています。自身の経営する会社の業務がありながら、倫理法人会の運営を担うのはとても大変なことですが、倫理法人会の役職を通して学ぶことは会社経営や家庭の発展と無関係ではありません。会社や家庭と直接関係のない活動だからこそ、自身の課題を客観的に把握することが出来ます。また会で直面する課題と共通するような問題を会社や家庭でも抱えていることも多く、倫理法人会の活動に誠心誠意取り組みむと、最終的には自身の課題解決のヒントを見い出すことがあります。

会員のKさんは、父親が小売業の会社を営んでおり、社内の幹部社員が後継者と決まっていたため、別の会社に就職し充実した日々を送っていました。

そんなKさんが社会人三年目を迎え、実家に帰省した時、父親から「会社を継いでほしい」と言われたのです。会社を継ぐ予定だった幹部社員が急に辞職してしまい、Kさんに白羽の矢が立ったのでした。

突然の出来事に戸惑いながらも、Kさんは父親からの頼みに応じ、入社しました。幹部社員たちは父親と会社を創業したメンバーが多く、後継者として入社したKさんは、ベテラン社員たちとのコミュニケーションがうまく取れないのが課題でした。

入社後まもなく父親が他界したため、Kさんは社長に就任しました。父親という後ろ盾を失ったことで、会社を経営しているのか、社員たちをまとめることが出来る



まずは理屈なしに取り組んでみる

のか不安に感じていた時に、知人に倫理法人会を紹介され、入会しました。

それから数年が経ち、Kさんは倫理法人会の県中枢を担う役職に抜擢されました。自社の業務で多忙なため断ることも考えましたが、以前倫理法人会のセミナーで聞いた「理屈なしにやってみる」という話を思い出し、役職を受けることにしました。

単会以外にも、県下に複数ある倫理法人会で開催している経営者モーニングセミナーに挨拶も兼ねて参加するようになると、会の役職者が「来てくれてありがとうございます」と温かく迎えてくれ、Kさんは安堵しました。その時ふと自社のことに思いが及び、ベテラン社員たちが毎朝出勤してくるときに挨拶は交わすものの、長年会社を支えてくれていたことへの感謝の言葉をかけていなかったことに気がついたのです。早速Kさんは、出勤してくる社員に対して、「おはようございます。いつもありがとうございます」と朝の挨拶に感謝の言葉を添えるようにしました。それからは少しずつではありますが、社内のコミュニケーションが円滑になりました。

また、高齢の社員への配慮もあり、IT化の波から遅れていましたが、ネット広告やSNSの活用をKさんが提案すると、皆Kさんの話に耳を傾けてくれ導入することとなり、結果売上も向上していききました。業務とは無関係に思えるようなことでも、与えられた役に誠心誠意取り組みむことで、前進のヒントが見えてくるのです。